

紀要

■設立50周年記念号

- 鳥浜貝塚におけるニホンジカの利用…………… 佐藤 巧庸 (1)
- 土偶の意味論に関する理論的基盤の整理と試論…………… 瀬口 眞司 (13)
- 湖北・湖東地域の前期古墳の葺石…………… 宮村 誠二 (23)
- 横穴式石室の空間設計の検討
—志賀古墳群における平面プランと副葬土器…………… 堀 真人 (28)
- 木村石塚古墳出土埴輪について…………… 辻川 哲朗 (40)
- 近江八幡市大中の湖南遺跡の再検討
—石敷き遺構 第1遺構の構造について— …………… 田中 咲子 (57)
- 小型海獣葡萄鏡について…………… 福井 知樹 (61)
- 墨書土器にみる古代の近江 —その2—…………… 濱 修 (64)
- 比良山系の山寺に築かれた石垣と回峰ネットワーク… 小林 裕季 (79)
- 『阿刀氏家譜系脈 御由緒二関ハル古記調査書類』
現代語訳・解題(2)…………… 阿刀 弘史 (90)
- 将棋史研究ノート 11—改めて将棋について考える—…………… 三宅 弘 (98)
- 「清瀧寺徳源院」絵図の示すもの…………… 中川 治美 (107)
- マメ類の利用についての研究ノート(2)…………… 小竹 志織 (119)
- 木製品の保存処理について —課題と実際—…………… 中村 智孝 (122)

34

墨書土器にみる古代の近江 ―その2―

濱 修

はじめに

筆者は当協会の『紀要』第12号(1999年3月)に「墨書土器にみる古代の近江」と題して、1999年当時の滋賀県の出土文字資料のうち、墨書土器について集成した。その後、県内の墨書土器は多数の資料が出土し、それらは各報告書で報告されている。本論は『紀要』第12号以降の滋賀県出土の墨書土器・刻書土器・文字瓦・ヘラ描土器・絵画土器の資料を集成したものである。墨書土器の集成は全国規模で明治大学吉村武彦氏を中心とする「明治大学日本古代学研究所」が墨書土器・刻書土器・文字瓦を「全国墨書・刻書土器データベース」として収集し、ネット上にアップしている。滋賀県内のデータもこの中に含まれており、2002年筆者も資料提供を行った。また、奈良文化財研究所は平城宮出土の墨書土器をデータベース化している。

滋賀県出土の墨書土器は、秋田裕毅氏が初めて集成し、墨書土器(刻書・ヘラ描・文字瓦を含む)が出土した守山市服部遺跡や高島市鴨遺跡など41遺跡69点を紹介した(秋田1983)。その後、1987年に岡本武憲氏が集成を行い(岡本1987)、筆者はそれらを受けてその後の出土資料を集成し、その内容の分析を行ってきた(濱1996・1999)。今回、当協会創立50周年記念号に執筆の機会を得たので、本論はこれらの成果に基づいて、現状の出土資料を集成し、今後の発掘調査の参考にしてもらうことを目的とする。

なお、今回の集成は『紀要』第12号で報告した資料は紙面の都合上と、重複を避けるため一部を除いて省略した。1900年代の資料は当協会のホームページにアップされているので合わせて活用してほしい。

1. 2000年以降の出土状況

墨書土器の出土点数は1900年代の集成時点で162遺跡1,149点であった。今回の集成で、墨書土器は240遺跡2,206点、刻書土器は21遺跡33点、ヘラ描土器は66遺跡213点、文字瓦は13遺跡135点、絵画土器は8遺跡13点となっている。墨書土器の出土状況を1900年代と比較してみると、出土点数で約2倍、遺跡数で約1.5倍に増加している。出土地域を旧郡別にみると上位から①野洲郡(1)、②滋賀郡(2)、③高島郡(4)、④栗太郡(6)、⑤神崎郡(3)、⑥蒲生郡(5)、⑦犬上郡(11)、⑧坂田郡(7)、⑨伊香郡(10)、⑩甲賀郡(8)、⑪愛知郡(9)、⑫東浅井郡(12)である。《()》は1999年の状況》栗太郡、犬上郡、高島郡での出土点数の増加が確認できる。

『第12号』では墨書土器の出土遺跡・出土遺構・器種構成・器形・記載部位・文字数・文字内容・時期等の分類を行い、グラフ化して近江における墨書土器の分析を行った。『第12号』での分析では出土遺跡の性格としては官衙、官衙関連集落、寺院からの出土が過半数を占め、出土遺構は溝や包含層が多く、器種は須恵器、記載部位は底部外面が多かった。また、遺物の時期は8世紀～9世紀をピークに10世紀で最盛期を終える全国的傾向とやや異なり、12世紀でも墨書土器を中心に平仮名や一文字記載の墨書土器が多くみられた。今回の集成ではこれらの分析は実施していないが、墨書土器の出土状況や特徴については大きな変化はないと考えられる。

出土状況の地域別の比較は発掘調査件数と比例するため、調査量の多い地域が墨書土器も増加している。しかし、地域を越えた、新たな事実も確認できた。以下、旧郡別に各地域の主な出土遺跡と遺物を概観してみたい。平成の大合併後、旧郡内の市町村は東近江・湖北地域など大きく改編されたが、これまでの資料の整理の都合で旧郡と旧市町村単位で報告する。()内は旧市町村名である。

なお、タイトルは古代とするが資料は中近世も含めている。

2. 墨書土器の地域別出土状況

(1) 旧滋賀郡(大津市・志賀町)

旧滋賀郡(瀬田を含む)では25遺跡から361点の墨書土器が報告されている。

近江国庁や近江国府跡周辺遺跡でも点数は少ないがいくつかの墨書が出土している。国庁跡では東郭から木製墓壇建物が発見され、瓦の廃棄土坑から「厨」の須恵器が出土している。このことから東郭は国庁での饗宴の場であろうと考察されている。国府跡の菅池遺跡の井戸から「曾麻呂」溝から「罌三」の人名と思われる墨書土器が出土している。また、「寛平大寶」「高」などが出土していると報告されている。大津市浮御堂遺跡の再整理で208点の数量が報告され一気に増加した。新たな調査では上仰木遺跡で12世紀後半の土師皿など19点の墨書土器が出土している(絵画土器の破片と思われるものもある)。関津遺跡は奈良時代の田上山作所に関連する建物群や奈良時代の田原道が見つかり、それらに伴う墨書土器が20点出土している。その中で県内最古の墨書土器とされる7世紀前半の「四十□」と記された土師器坏が出土し、「四十」は「罌」の略字で「岡」の異体字である。関津遺跡が飛鳥時代から大和朝廷と深い関りがあったことを示している。

(2) 旧栗太郡(草津市・栗東市)

草津市・栗東市からは37遺跡から242点の墨書土器が出土している。

草津市域では大將軍遺跡から「高野郷長」「高野郷」「郷長」「栗太」「税」などの墨書土器約40点が水路より出土し、その水路周辺には南北方向の掘立柱建物が配置されている。郷名が記載された墨書土器がまとまって出土する遺跡は全国的にも希少である。『和名類聚抄』には栗太郡に高野郷はなく、現在、高野の地名は大將軍遺跡から約6km離れた栗東市高野に所在する。そのため、大將軍遺跡を高野郷庁や郷長の居宅とするには難しいが、調査担当者は高野郷が消滅した逸名ではないかと想定している(出典11)。また、草津市宮前遺跡からは「の」「十」「米」などの墨書がある12世紀代の黒色土器がみつまっている。近江の特徴として、全国的に墨書土器が消滅する10世紀以降も墨書土器が出土するが、宮前遺跡の黒色土器はその典型といえる。同様の遺跡では守山市伊勢遺跡、東近江市石田遺跡、彦根市国領遺跡などがある。12世紀代の黒色土器の墨書は平仮名や記号とも思われる一文字の「十」または「×」「井」「大」などが目立つ。このことは黒色土器を用いたと思われる民衆レベルの識字意識の高まりと言えよう(濱2001)。

栗東市では手原遺跡からこれまでに89点の墨書土器や200点以上の木簡(削屑を含む)が出土し、底付き2間×5間の掘立柱建物など大型建物が多数見つまっている。8世紀代の栗太郡における郡または郷に関連した役所関連施設が想定される。墨書土器は「山」「貴」「梓カ」「越」など一文字記載が多いが「□□麻呂」の人名墨書も出土している。

最近の調査例で2遺跡から墨書土器がみつまっている。上砥山遺跡は流路から荷札木簡とともに人名と思われる「小足」「富豊」や「太」「井」などの墨書土器が出土している。官衙的性格を持つ遺跡である。霊仙寺遺跡では井戸から8世紀代の「廣津」「廣津祢」と記す須恵器が2点出土している。「廣津」の墨書土器は高島市鴨遺跡から人名とされてきた「廣津」「廣津祢」と記載された墨書土器が出土している。筆者は霊仙寺遺跡の墨書土器の写真の提供を栗東市教委から受けて、鴨遺跡の実測図と比較したところ、筆跡はやや異なるが非常に類似していると実感した(図2)。

(3) 旧野洲郡(守山市・野洲町・中主町)

旧野洲郡域からは県内最多の58遺跡567点の墨書土器が出土している。1900年代では約250点であったから倍以上である。

守山市服部遺跡の再整理で概報(出典37)記載以外の資料を掲載した。再整理の過程で「鳥」の文字が20字ほど見つまっている。「鳥」の文字が簡略化され最後は「○＝」に変化する4段階の過程がわかる須恵器片があり興味をそそった。先にも述べたが伊勢遺跡や欲賀南遺跡から12世紀代

の黒色土器を中心に「大」「十」などの墨書土器が出土している。県内の1900年代の12世紀以降の墨書土器の資料は小島陸夫氏が集成している(出典33)。琵琶湖に近接する山賀遺跡からは「夜須良カ」と思われる墨書土器が出土し、野洲浦と判読することも可能で、赤野井湾周辺に古代の野洲浦(湊)の所在した可能性もある。

野洲市(旧中主町を含む)の資料は河合順之氏が市内で出土した墨書土器を網羅して集成・考察している(出典43・44)。旧野洲町域では北桜遺跡の水路状遺構を中心に8世紀中～9世紀前の須恵器や土師器に記された墨書土器が64点以上出土している。これまでの資料では「三上里」「正像」「佛□」など寺院を想定される墨書が多かったが、今回の報告で新たな遺跡像がみえてきた。須恵器の蓋外面に「民□」内面に「春米運カ/日□/□物者□」と記され、河合氏は『養老令』田令などに規定される田租の「春米運京」に関わる墨書と推定している。北桜遺跡は郡衙補完施設または川津的な遺跡と推定している。

旧中主町内では滋賀県内出土墨書土器の1割以上である243点も出土している。古代木簡の出土件数も最も多く、古代近江の重要な政治的活動拠点であったといえる。墨書土器は7世紀後半～8世紀初頭の野洲評家と推定される西河原遺跡群(西河原森ノ内遺跡・西河原遺跡・西河原宮ノ内遺跡・光相寺遺跡・吉地薬師堂遺跡・吉地大寺遺跡・湯ノ部遺跡・木部遺跡)から多く出土している。近年の資料では五条遺跡から「大宅」など施設名や現存する比留田の地名を現すと思われる「比利多」の墨書土器が溝や包含層から出土している。そのほか光相寺遺跡では溝から「三宅家カ」や西河原森ノ内遺跡では柱穴から「佛佛カ」などの出土がある。

(4) 旧甲賀郡(水口町・信楽町・甲南町・甲賀町・土山町・甲西町・石部町)

旧甲賀郡内では5遺跡から30点の墨書土器の出土が報告されている。

旧甲賀郡の墨書土器はこれまで紫香楽宮の宮町遺跡が中心であったが、新名神建設工事に伴い紫香楽宮関連で新たな発見があった。紫香楽宮である宮町遺跡の玄関口に位置する新宮神社遺跡では「上総国山辺郡/天平十六年十月」の荷札木簡とともに「大」など2点の墨書土器が出土している。紫香楽宮造営に伴う梵鐘鑄造など大規模な鑄造遺構が検出された鍛冶屋敷遺跡からは「二竈頭」の墨書土器が出土している。梵鐘鑄造遺構のほかに鑄造ユニットが東西2列に各9基の送風施設・溶解炉・鑄込場が設置されていたとみられ、「二竈頭」はその二番目の施設の責任者とされる。

(5) 旧蒲生郡(近江八幡市・竜王町・日野町・蒲生町・安土町)

旧蒲生郡内では35遺跡158点を確認した。

竜王町ブタイ遺跡は大溝から墨書土器や荷札木簡が出土

している。この大溝は遺跡の背後にある鏡山古窯跡で生産された須恵器を運搬する水路とみられる。木簡には「桐原郷惹原史」と記され、桐原の地名は現在の近江八幡市にある。惹原史は正倉院文書にもその名があり、近江に居住する渡来系氏族とみられる、鏡山生産遺跡群の開発に関わる人物と思われる。「田」「田」を記した墨書土器や、眉や目を描いた絵画土器などが大溝から出土している。1次調査では包含層から「大君」「石林」などの人名を記した墨書土器が出土している。

東近江市蛭子田遺跡では土坑や溝から「依」「柴」などの一文字の墨書土器が出土している。

(6) 旧神崎郡・愛知郡(八日市市・能登川町・五個荘町・永源寺町・愛知川町・秦荘町・愛東町・湖東町)

両郡域からは22遺跡227点の墨書土器を確認しているが、1900年代に大量に出土した東近江市斗西遺跡などの調査が終息に向かい、墨書土器の出土量も増加していない。

旧神崎郡内では東近江市金貝遺跡、竜田門ノ前遺跡で奈良時代の、石田遺跡で12世紀～13世紀の墨書土器が報告されている。東近江市下羽田遺跡では奈良時代～平安時代の遺構から「宮家」「田濱カ」など6点の墨書土器や円面硯、転用硯などが出土している。同遺跡からは8世紀末～9世紀初頭と9世紀末～10世紀前半の2時期の石敷遺構が検出されており、何らかの祭祀跡と想定されている。墨書土器の多くは下層の石敷遺構から出土している。旧愛知川郡内からの新出資料は確認できていない。

(7) 旧犬上郡(彦根市・豊郷町・甲良町・多賀町)

旧犬上郡内では彦根市の六反田遺跡など13遺跡から136点の墨書土器が出土している。

彦根市六反田遺跡は河道に構築された船着き場が発見されている。河道は入江内湖を介して琵琶湖につながり、陸路は東山道に通じ、水路と陸路を結ぶ交通の要衝としての港湾施設である。木簡が4点出土しており、そのうち一点は「税代黒米五斗/廿五日」と内外面に記される荷札木簡である。墨書土器は67点出土しており、湖東地域では特筆している。8世紀後半を中心とする墨書土器は施設を現す「大家」「奥家」や役職名の「郷長」、人名の「毛人」「守君」などがある。「守君」の人名は高島市上御殿遺跡出土墨書土器との関連で注目される。松原内湖遺跡は六反田遺跡とは佐和山を挟んで琵琶湖側であるが「大家」「山家」などの同時期の墨書土器が出土している。国領遺跡や賀田山遺跡からは12～13世紀代の黒色土器にかな文字などが記されている。

(8) 旧坂田郡(長浜市・米原市・近江町・山東町・伊吹町)

旧坂田郡からは20遺跡98点の資料があるが、1900年

代からさほど変化はない。

米原市能仁寺遺跡は京極氏菩提寺の清滝寺に近接し、京極家菩提寺の一群とされる。15世紀代の白磁の皿に「仁」の朱書があり、「尽」の墨書土器や「仁」の習書木簡も出土しており、能仁(尽)寺の寺名を示している。

(9) 旧東浅井郡・伊香郡(浅井町・虎姫町・びわ町・湖北町・高月町・木之本町・余呉町・西浅井町)

両地域からは10遺跡122点が出土して、1900年代よりも5倍近く増加している。そのほとんどは長浜市塩津港遺跡からの出土でこれまでに100点弱見つかっている。

塩津港遺跡は12世紀を中心とした、港湾施設と神社遺構が発見され神社遺構からは大量の起請文木簡が出土している。墨書土器は「田」「上寺」の墨書土器のほか土師皿内面に全面に呪符を記した墨書土器が本殿周辺から2点出土し、神仏習合の地方神社の性格がよく表れている。港湾遺構の墨書土器は60点余り確認され、現在も整理中である。12世紀の土師器皿の「敦賀」墨書は京と北陸を結ぶ交易の中心地であった塩津港の特徴をよく表している。さらに、墨書土器で注目される点は12世紀代の白磁や青磁の輸入陶磁器に判読不明な一文字の墨書が多くみられる点である。希少な輸入陶磁器の個人所有権を主張したものであろう(安土博2018、長浜城博2019)。

(10) 旧高島郡(マキノ町・今津町・新旭町・安曇川町・高島町・朽木村)

当地からは14遺跡265点が出土している。高島郡内では1900年代に小荒路十寺遺跡や日置前遺跡、鴨遺跡などから重要な墨書土器が多く出土している。鴨遺跡の再整理などで以前から確認されていた「廣津」などのほか170点余りが確認されている。

高島市上御殿遺跡からは8世紀後半から9世紀代の檜扇木簡や人面墨書土器、斎串、8点の墨書土器などが出土している。そのうちの一点は全国的にも珍しい墨書土器である。底部穿孔の土師器の甕の体部外面に「守君船人」の文字が7行記されている。関東では地名+人名+形代+奉などの形式の多文字墨書土器が祭祀遺物として集落遺跡から多く出土している(高島2020)。上御殿遺跡の例は人名のみで関東の祭祀に伴う多文字墨書土器とはやや性格が異なっている。水の祭祀に関わる墨書土器とされている。

3. 刻書土器

刻書土器は21遺跡で33点確認している。刻書土器とヘラ描土器(ヘラ記号)の区分は判別が難しい。今回は「三」「十」「×」「井」「米」「卅」などは記号扱いにして除いた。なお、「井」は井戸や水路を意味するとの考えもあり(吉水2007)、それぞれの判断は遺構の性格や遺物の出土状況から判断していただきたい。

『第12号』でも紹介したが、野洲市桜生古墳群の古墳石室前庭部から出土した短頸壺に刻書された「此者酒人首□□」は被葬者の名前を表していると思われる。県内の刻書土器では最も古い時期の資料である。大津市青江遺跡の須恵器蓋に「天平勝□」の刻書があり、天平勝宝年間(749～757)を表している。年代の判る希少資料である。大津市南滋賀遺跡で「錦寺」の刻まれた緑釉陶器が表採されている。「錦寺」は南滋賀廃寺と想定され、9世紀末に南滋賀廃寺は錦寺(錦部寺)と呼ばれていた可能性が高く、渡来系氏族の錦部村主の氏寺と推定される(松浦2012)。

4. 絵画土器

絵画土器は8遺跡で13点確認したが、見落としもあると思われる。古い時期では長浜市大茂・鴨田遺跡で弥生時代終わりの壺に人や竜、鳥などが描かれている。県内ではこの時期の希少資料である。大津市上仰木遺跡では磁州窯系の輸入陶磁器などのほか、土師器皿の内外面に僧と髪の長い女人像、薙刀を描いた絵画土器出土している。薙刀は僧兵を連想させ、庶民的な女人像との取り合わせが興味深い。遺跡は有力豪族の邸宅跡とみられ、比叡山の北の玄関口である上仰木遺跡の象徴的絵画(戯画)土器である。長浜市塩津港遺跡出土の土師器の皿には人物の顔が線刻されている。折れ烏帽子をかぶり、やや豊満顔の中世民衆の素顔が表現されている。

5. 文字瓦

文字瓦は13遺跡で135点確認したが、見落としの資料も多々含まれると思われる。配慮願いたい。

文字瓦は大津市近江国庁周辺遺跡で多く出土している。近江国庁跡、近江国府関連遺跡の惣山遺跡・青江遺跡・中路遺跡では「修」「逆丸」(いずれも異体字や逆字)が出土している。これまでに報じられている資料であるが、勢多駅家とされる堂ノ上遺跡では「承和十一年六月」(844年)の文字瓦出土し、近年の調査でも周辺遺跡で見つかっている。大津市穴太廃寺の「庚寅年」(690)と「壬辰年六月」(692)の文字瓦は穴太廃寺の再建寺院の時期とされる。

近世の資料ではあるが膳所城遺跡では瓦の生産者と思しき文字瓦がみついている。彦根城跡でも多数の刻印瓦が出土している。

6. ヘラ描土器

先にも述べたが、今回、刻書以外のヘラ描土器はヘラ記号として扱い文字の範疇から除外した。64遺跡で213点確認したが、見落としが多々あると思われる。資料使用時には確認をお願いしたい。

ヘラ描土器は焼成前にヘラ描きする例が多く、それらは生産遺跡では窯印とされ、出荷先の目印などとされる。消費地で焼成後にヘラ描きされる場合は、所有や保管などを

目的としたものであろう。また、「九字」や「☆」のヘラ描きは祭祀に用いたもので、「井」「卅」「卅」など九字を省略した記号とも思われる。12世紀以降の黒色土器を中心に「×」「キ」「井」など目立つが、これは墨書土器と同じく庶民の識字意識の高まりを反映していると思われる。今回資料を整理して気付いた遺跡で、南滋賀遺跡では6世紀代のヘラ描土器が10数点出土している。大壁建物をもつ渡来系氏族と何らかの関係があると面白い。

滋賀県最古の出土文字資料とされる長浜市大茂・鴨田遺跡のヘラ描土器「ト」は古墳時代初頭の甕の頸部に線刻されている。口縁部を上に見ると「ト」の逆字になる。写真で観察すると甕の頸部屈曲部直下に焼成前に線刻をおこない、線の切り合いから横線を先に、縦線をほぼ直角に後から引いて、現代の筆順では逆である。これらから「ト」のヘラ描土器を文字と判断する積極的根拠はない。三重県大城遺跡では弥生時代後期とされる「奉」の線刻土器があるが(安城2001)、弥生時代末の墨書土器とともにこの時期の土器文字資料の評価は定まっていない。

7. 墨書土器にみる遺跡の特徴

滋賀県出土の墨書土器は2000年代に入り出土遺跡、出土点数ともに大きく増加し、その理由は高度経済成長期の発掘調査量の増加に伴い報告資料が増加したものである。調査成果により多くの資料が蓄積された。ごく一部であるが、土器・瓦の記載文字資料で気になった点を少々まとめてみたい。

(1) 人物と物資の移動

1つは滋賀県内の旧郡地域を超えた文字資料の出土である。高島市鴨遺跡と栗東市霊仙寺遺跡から出土している「廣津」の墨書土器である。両者ほぼ同時期の遺物で、きわめて類似している。大橋信弥氏は霊仙寺遺跡の新聞発表のコメント(2020年12月)で「廣津」(ひろつき)は古代に栗太郡一帯を支配していた物部氏の配下として領地を管理するために派遣された渡来系氏族」としている。鴨遺跡と霊仙寺遺跡の「廣津」が同一人物であったとすれば、琵琶湖を挟んで南北約40kmの霊仙寺遺跡と鴨遺跡を「廣津」なる人物が往来していたことになり、新たな興味をかきたてる。

同じく人名を記したほぼ同時期の墨書土器で、彦根市六反田遺跡と高島市上御殿遺跡の「守君」の墨書がある。上御殿遺跡の「守君船人」は名前のとおり船を操る人物であれば琵琶湖の水運を管理する人物の可能性もある。この人物が、湖西に限らず湖東周辺にも活動していた可能性がある。さらに、野洲市北桜遺跡から「船人」「守」の墨書が出土している。報告書では、上御殿遺跡・六反田遺跡・北桜遺跡の墨書土器から「守君船人」が水運に関わる有力豪族と論じている(出典97)。また、守君は古代美濃の有力氏族で

水の祭祀に関わっていたとされる(榮原 1981)。守君が美濃・近江坂田郡・高島郡に所在する関連は継体天皇の父彦主人王の関係からも論じられている(大橋 2014)。いずれにしても「守君」と記された人物が琵琶湖の水運を利用し、交易や広域支配に関する権利を持った人物と思われる。

(2) 荷札木簡と墨書土器

荷札木簡と墨書土器がともに出土する遺跡に竜王町ブタイ遺跡、彦根市六反田遺跡、栗東市上砥山遺跡がある。いずれも 8 世紀代の遺跡で物資の運搬やその祭祀に関わる官衙的な遺跡と思われる。ブタイ遺跡の荷札に記された「桐原郷惹原史」は鏡山古窯に生産管理に関わる人物とされ、鏡山開発をやや離れた現近江八幡市桐原周辺でも関わりがあったと思われる。六反田遺跡の荷札木簡は外面に「×税代黒米五斗」、外面に「×廿五日」と記される。港湾施設に税として黒米(精米でない米)を納めた際の荷札で、この施設が郡衙関連の重要な輸送基地であったと推察される。上砥山遺跡では川跡から大量の土器や木製品に混じって木簡転用琴柱、荷札木簡、墨書土器、土馬、中空円面硯などが出土している。この遺跡も文字で物資を管理する官衙関連の施設があったと思われる。やや時期は下がるが高島市鴨遺跡は大量の墨書土器と若狭国遠敷郡からの貢納米に付された荷札木簡「遠敷郡遠敷郷小丹里/秦人足嶋庸米六斗」が出土している。荷札木簡と墨書土器が出土する遺跡は国衙支配を超えた、各郡内の重要な遺跡であろう。

(3) 文字にみる特徴

墨書土器の多くが一文字であり、また、破片が多く完形品が少なく、遺跡の性格や記載文字の内容を判断する手掛かりが少ない場合が多い。その中で内容の判別できる主な資料を抽出してみたい。

地名を表す文字では大將軍遺跡「高野」、益須寺遺跡「野洲郡」「近江」(刻書)、山賀遺跡「夜須良」、北桜遺跡「三上里」、五条遺跡「比利多」、塩津港遺跡「敦賀」などがある。

役職名では大將軍遺跡「高野郷長」、鍛冶屋敷遺跡「二竈頭」、ブタイ遺跡「大君」、六反田遺跡「郷長」などである。

施設名では近江国庁「厨」、浮御堂遺跡「右坊」、南滋賀遺跡「錦寺」(刻書)、北桜遺跡「山寺」、安養寺遺跡「林宅」、福泉寺「福林寺」、五条遺跡「大宅」、木部遺跡「虫生宅」、松原内湖遺跡の「大家」「山家」、六反田遺跡の「山家」「奥家」、鴨遺跡「出雲寺」などである。

人名と思われるものは菅池遺跡「曾麻呂」、手原遺跡「□□麻呂」、上砥山遺跡「富豊」「小足」、北桜遺跡「稻主」、六反田遺跡「真得」「毛人」「守君」、上御殿遺跡の「守君船人」など多数ある。

年紀を記す資料では青江遺跡の刻書土器で「天平勝宝」(749～757)がある。文字瓦では穴太廃寺「庚寅年」(690)と「壬辰年六月」(692)、堂ノ上遺跡の「承和十一年六月」(844)

は 1900 年代の資料である。

このほか祭祀に関する文字では「卍」や墨書人面土器、呪符木簡では簡頭に記す符籙、呪符を記した土師皿、ヘラ描土器の「☆」や九字を表現した土器など興味深いものが多い。

おわりに

滋賀県内の出土文字資料は土器、瓦のほか今回は集成していないが木簡・金石文・鏡など金属製品・印章など多数見つかっている。今回、当協会の創立 50 周年記念号に執筆の機会を得て、これまで収集してきた文字資料を小論にまとめることができた。今回の資料集成は、今後の発掘調査や整理調査に役立ててもらうために、掲載したものである。これらの資料は、まだ何点か見落としがあり、未掲載の資料も多いと思われる。遺物の時期についても資料使用時には確認していただきたい。

また、本論のデーターは Excel に収集してあり、当協会に保管してある。協会職員各位は個人の努力で埴輪、瓦、縄文土器、弥生土器、集落遺跡、古墳、出土将棋など多くの資料をデーター化していると思うが、個人的には今回の資料収集でその限界を感じている。情報のディスクロージョンが進む中で、これらの資料が修正と補填を加えつつ、継続的に利用できるように、広く公開し情報の共有化をすべき時代と思われる。当協会の創立 50 周年を機会にデーターベース化をして、広く活用していただくことを願うものである。

文献

- 秋田裕毅(1983)『近江の官衙―墨書土器と硯―』「滋賀県立風土記の丘資料館特別展」図録
- 安城市歴史博物館(2001)『弥生人の絵画 倭人の顔』
- 大橋信弥(2014)「継体天皇と美濃―『守君船人』墨書土器発見の意義―」『淡海文化財論叢第六輯』淡海文化財論叢刊行会
- 榮原永久男(1981)「守君小考―柚井遺跡出土木簡の検討―」『人文研究第 33 巻第 12 分冊』大阪市立大学
- 滋賀県立安土城考古博物館(2018)『古代地方木簡の世紀』「第 36 回企画展図録」
- 岡本武憲(1987)「近江出土の墨書土器について」『滋賀県埋蔵文化財センター紀要 3』
- 高島英之(2000)『古代出土文字資料の研究』東京堂出版、(2020)「金石文と墨書土器」『テーマで学ぶ日本古代史』吉川弘文館
- 長浜市長浜城歴史博物館(2019)『塩津』「企画展図録」
- 濱修(1996)「古代遺跡と出土文字資料」『紀要第 9 号』財団法人滋賀県文化財保護協会
- 濱修(1999)「墨書土器にみる古代の近江」『紀要第 12 号』財団法人滋賀県文化財保護協会
- 濱修(2001)「中世集落と墨書土器」『近江の考古と歴史』西田弘先生米寿記念論集刊行会

平川南(2000)『墨書土器の研究』吉川弘文館
 松浦俊和(2012)「大津市南滋賀出土の筥書土器について」『近江文化財論叢第四輯』淡海文化財論叢刊行会
 吉水眞彦(2007)「大津市上高砂遺跡の墨書土器「一井」と用水路」『淡海文化財論叢第二輯』淡海文化財論叢刊行会

出典

1. 滋賀県(2004)『史跡近江国庁跡 調査整備事業報告書Ⅱ』
2. 大津市教委(2011)『近江国府跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(56)」
3. 大津市教委(2011)『大津市埋蔵文化財調査年報平成 21(2009)年度』・(2013)『近江国府跡・菅池遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(81)」
4. 大津市教委(2006)『石山国分寺遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財発掘調査報告書(33)」
5. 滋賀県・県協会(2008)「浮御堂遺跡」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 8』
6. 大津市教委(2013)『上仰木遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(65)」
7. 滋賀県・県協会(2009・2010・2011)『関津遺跡Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ』「ほ場整備関係(経営体育成基盤整備)遺跡発掘調査報告書 34-2」
8. 滋賀県・県協会(2002)「東光寺遺跡」『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書』
9. 大津市教委(2015)『中畑遺跡発掘調査報告書Ⅱ』「大津市埋蔵文化財調査報告書 89」
10. 草津市教委(2008)『野路岡田遺跡発掘調査報告書(その2)』「草津市文化財調査報告書 68」
11. 草津市教委(2001)『平成 11 年度草津市文化財年報』「大將軍遺跡・草津市文化財調査報告書 41」
12. 草津市教委「皆出遺跡」『草津市文化財調査報告書 8』
13. 滋賀県・県協会(1998)『芦浦遺跡』「滋賀県住宅供給公社芦浦団地建設に伴う発掘調査報告書」
14. 草津市教委 1994『下ノ笠堂跡・馬場・上笠遺跡発掘調査報告書』「草津市文化財調査報告書 22」
15. 草津市教委(2002)『矢倉古墳群第 1 次発掘調査概要報告書』「草津市文化財調査報告書 45」
16. 滋賀県・県協会(2005)『中畑遺跡Ⅱ』「草津川改修事業ならびに草津川放水路建設事業に伴う発掘調査報告書」
17. 滋賀県・県協会(2004)『宮前遺跡』「大津湖南幹線都市計画街路整備事業に伴う発掘調査報告書 1」
18. 滋賀県・県協会(2010)『志那湖底遺跡』「琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 10」
19. 栗東市教委・栗東市事業団(2009・2010)『2008・2009 年度年報 栗東市埋蔵文化財調査報告』
20. 栗東市教委・栗東市事業団(2010)『手原遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第 22 冊」
21. 栗東市教委・栗東市事業団(2006)『下鉤東遺跡』「2004 年度年報 栗東市埋蔵文化財調査報告」
22. 栗東市教委・栗東市事業団(2019)『野尻・下鉤遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第 117 冊」
23. 栗東市教委・栗東市事業団(2018)『野尻遺跡発掘調査報告書』「平成 28 年度 2 次調査 栗東市文化財調査報告書第 129 冊」
24. 栗東市教委・栗東市事業団(2009)『多福寺遺跡』「栗東市文化財調査報告書第 18 冊」
25. 栗東市教委・栗東市事業団(2012)『蜂屋遺跡』「平成 23 年度 1 次調査 栗東市文化財調査報告書第 56 冊」
26. 栗東市教委・栗東市事業団(2010)『林遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第 28 冊」
27. 栗東市教委・栗東市事業団(2011)『小野遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第 39 冊」
28. 県協会(2020)『川のほとりにて』「レトロ・レトロの展覧会 2020 特別展示 2 上砥山遺跡」
29. 栗東町教委・栗東市事業団(1999)「十里遺跡最新の調査から」栗東町出土文化財センター講座 滋賀県埋蔵文化財センター(2021)「令和 2 年度滋賀県埋蔵文化財発掘調査成果報告集」
30. 栗東市教委・栗東市事業団(2008)『靈仙寺遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化調査報告書第 8 冊」
31. 栗東市協会(2020)『靈山寺・糺遺跡発掘調査現地説明会資料』
32. 栗東市教委・栗東市事業団(2009)「目川遺跡」『2007 年度年報・栗東市埋蔵文化財調査報告』
33. 守山市教委(1997)『伊勢遺跡第 28 次発掘調査報告書』「守山市文化財調査報告書第 63 冊」
34. 滋賀県教・県協会(2016)『金森西遺跡』「草津守山線補助道路整備事業に伴う発掘調査報告書」
35. 守山市埋文センター(2003)『乙貞』「金森東遺跡 127 号」
36. 守山市教委(1988)『古高遺跡』「守山市発掘調査報告 32」
37. 守山市教委(1980)『服部遺跡概報』、再整理
38. 守山市教委(2009)『欲賀南遺跡第 4 次発掘調査報告書』、守山市教委(2012)『欲賀南遺跡発掘調査報告書』「欲賀土地区画整理事業関連発掘調査報告書 2」
39. 滋賀県・県協会(2001)『山賀遺跡』「琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 5」
40. 滋賀県・県協会(1997)『杉江遺跡・大宮遺跡Ⅲ』「守山川中小河川改修工事伴う発掘調査報告書」
41. 守山市教委(1998)『赤野井遺跡発掘調査報告書』「守山市文化財調査報告書 70」
42. 滋賀県・県協会(2002)『小津浜遺跡』「琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 6」
43. 野洲市教委(2011)『平成 22 年度野洲市文化財調査概要報告書 2』「野洲の墨書土器 1」
44. 野洲市教委(2012)『平成 23 年度野洲市文化財調査概要報告書 2』「野洲の墨書土器 2」
45. 野洲市教委(2009)『平成 20 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 2』「三上遺跡」
46. 野洲市教委(2005)『1987 年埋蔵文化財調査年報』「西田井遺跡」

47. 野洲市教委(2003)『野洲町文化財年報 2000』「野洲町文化財資料集 2002-2 辻・安城寺遺跡」・野洲市教委(2012)「安養寺遺跡」『平成 23 年度野洲市文化財調査概要報告書』
48. 野洲町教委(1994)「街道遺跡」『平成 5 年町内遺跡発掘調査概要』「野洲町文化財資料集 1994-1」
49. 野洲町教委(2003「久野部遺跡」『野洲町文化財年報 2000』「町文化財資料集」2002-2)
50. 滋賀県・県協会(2006)『大篠原西遺跡発掘調査報告書』「主要地方道野洲中主線道路改築工事に伴う発掘調査報告書」
51. 野洲町教委(2002)『大篠原遺跡発掘調査概要報告書』
52. 野洲市教委『1993・94 埋蔵文化財調査報告書』・野洲市教委(2020)『令和元年度野洲市文化財調査概要報告書』・野洲市教委(2020)『平成 29 年度小篠原遺跡発掘調査概要報告書』
53. 野洲市教委(2019)『平成 30 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書』
54. 元興寺文化財研究所(1998)『富波遺跡発掘調査報告書』
55. 野洲町教委(2000)「中北遺跡」『野洲町平成 11 年度概要報告書』
56. 野洲市教委(2018)「西河原森ノ内遺跡」『平成 29 年度野洲市内遺跡発掘調査年報』・野洲市教委(2006)『野洲市内遺跡発掘調査報告書Ⅴ』
57. 中主町教委(2004)「西河原遺跡」『平成 14 年度中主町内発掘調査年報』「中主町第 67 集」・野洲市教委(2005)『平成 16 年度野洲市内発掘調査概要Ⅱ』
58. 野洲市教委(2006)「西河原薄窪遺跡」『野洲市内遺跡発掘調査報告書Ⅳ』
59. 滋賀県・県協会(2001)『西河原宮ノ内遺跡Ⅱ』「県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅳ」
60. 野洲市教委(2007)『比留田・西河原宮ノ内・比留田法田遺跡発掘調査報告書』「県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う」
61. 中主町教委(2004)『吉地薬師堂遺跡発掘調査報告書』「中主町文化財調査報告第 68 集」、中主町教委(1993)『平成 4 年度中主町埋蔵文化財発掘調査集Ⅰ』「中主町文化財調査報告書第 38 集」
62. 野洲市教委(2007)『西川原森ノ内遺跡第 5 次・光相寺遺跡第 2 次発掘調査概要報告書補遺』・野洲市教委(2006)『野洲市内遺跡発掘調査報告書Ⅱ』
63. 野洲市教委(2006)『野洲市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
64. 野洲市教委(2010)『平成 21 年度野洲市埋蔵文化財調査概要報告書 2』
65. 滋賀県・県協会(2001)『木部遺跡Ⅰ』「県道荒見上野近江八幡線改良工事に伴う発掘調査報告書Ⅶ」
66. 野洲市教委(2005)「八夫遺跡」『平成 16 年野洲市内遺跡発掘調査概要Ⅱ』「野洲町文化財資料集 2005-2」
67. 中主町教委(2004)「虫生遺跡」『平成 14 年度中主町内発掘調査年報』「中主町文化財調査報告書第 67 集」
68. 野洲市教委(2006)「御明田遺跡」『野洲市内遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
69. 滋賀県・県協会(2004)『神宮神社遺跡』「近畿自動車道名古屋神戸線建設工事に伴う発掘調査報告書 2」
70. 滋賀県(2006)『鍛冶屋敷遺跡』「近畿自動車道名古屋神戸線建設工事に伴う発掘調査報告書 3」
71. 信楽町教委(2004)『北黄瀬遺跡発掘調査概要報告書』「信楽町文化財報告書第 12 集」
72. 滋賀県・県協会(2011)『夏見城遺跡』「ほ場整備関係発掘調査報告書 38-3」
73. 滋賀県・県協会(2008)『安養寺遺跡・辻野遺跡』「県営農業農村整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅱ」
74. 滋賀県・県協会(2001)『上出A遺跡・上出B遺跡』「県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書 16-3」
75. 滋賀県・県協会(2002)「史跡大中の湖南遺跡」『緊急地域雇用特別交付金事業に伴う出土文化財管理業務報告書』
76. 竜王町教委(2004)『ブタイ遺跡発掘調査報告書Ⅰ』「竜王町埋蔵文化財発掘調査報告書第 4 集」
77. 竜王町教委・県協会(2019)『ブタイ遺跡発掘調査報告書Ⅲ』「竜王町埋蔵文化財発掘調査報告書第 16 集」
78. 滋賀県・県協会(2014)『蛭子田遺跡 1・2』「蒲生スマートインターチェンジ設置工事に伴う発掘調査報告書」
79. 滋賀県・県協会(2011)『金貝遺跡』「八日市市新川広域河川改修工事に伴う発掘調査報告書」
80. 能登川町教委(2005)『石田遺跡』(7-3 区)「能登川町埋蔵文化財調査報告書第 58 集」
81. 能登川町教委(2005)『石田遺跡』(19 次)「能登川町埋蔵文化財調査報告書第 60 集」
82. 東近江市教委(2009)「竜田門ノ前遺跡」「東近江市埋蔵文化財調査報告書第 12 集」
83. 滋賀県・県協会(2013)『六反田遺跡』「中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書 3-1」
84. 滋賀県・県協会(2011)『松原内湖遺跡Ⅱ』「琵琶湖流域下水道事業に伴う発掘調査報告書」
85. 滋賀県・県協会(2009)『肥田城遺跡Ⅰ』「ほ場関係遺跡発掘調査報告書 36-1」
86. 滋賀県・県協会(2014)「多景島遺跡」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書 14』
87. 滋賀県・県協会(2006)『国領遺跡』「県道新海上稲葉線道路改築工事に伴う発掘調査報告」
88. 滋賀県・県協会(2019)『賀田山遺跡』「県営かんがい排水事業関連発掘調査報告書 2」
89. 滋賀県・県協会(2000)『稲里遺跡』「県営一般農道整備事業関連遺跡発掘調査報告書」
90. 滋賀県・県協会(2004)『敏満寺遺跡』「名神高速道路改良事業に伴う発掘調査報告書」
91. 滋賀県・県協会(2003)『上平等遺跡・寺林遺跡』「中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書 2」
92. 滋賀県・県協会(2014)『清滝寺遺跡・能仁寺遺跡Ⅱ』「能仁寺川通常砂防工事に伴う発掘調査報告書 2」

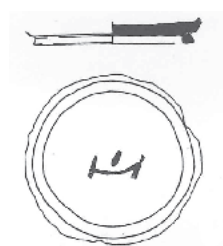
93. 滋賀県・県協会(2003)「尾上遺跡・尾上浜遺跡」『琵琶湖開発事業関連埋蔵文化財発掘調査報告書7』
94. 滋賀県・県協会(2019・2021)『塩津港遺跡1・2』「大川総合流域防災事業に伴う発掘調査報告書1・2」
95. 滋賀県・県協会『塩津港遺跡』(国道8号改修工事調査)未完(整理中)、参考文献「安土博(2008)」 「長浜城博(2009)」
96. 滋賀県・県協会(2005)「鴨遺跡」『出土文化財資料化収納業務報告書Ⅱ-1』
97. 滋賀県・県協(2019)『上御殿遺跡』「鴨川補助広域基幹河川改修事業に伴う発掘調査報告書3」
98. 大津市教委(2006)『近江国府跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(41) 青江遺跡」
99. 大津市教委(2017)『真野廃寺発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(107)」
100. 滋賀県・県協会(1998・2001)『穴太遺跡発掘調査報告書Ⅱ・Ⅳ』
101. 松浦俊和(2012)「大津市南滋賀出土の鏡書土器について」『近江文化財論叢Ⅳ』
102. 守山市教委(1998)「守山市文化財調査報告書70」
103. 滋賀県・県協会(1992)『桜生古墳群発掘調査報告書』「びわの木川都市対策砂防工事に伴う」
104. 大津市教委(2013)『上仰木遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(65)」
105. 野洲町教委(2004)『2003年野洲町文化財調査年報』「野洲町文化財資料集2004-2 下々塚遺跡」
106. 東近江市教委(2010)『地蔵遺跡(1次)』「東近江市埋蔵文化財調査報告書第15集」
107. 長浜市教委(2002)『大戊亥遺跡・鴨田遺跡調査報告書』「長浜市埋蔵文化財調査資料第40集」
108. 大津市教委(2009)『近江国府関連遺跡発掘調査報告書Ⅳ惣山遺跡』「大津市埋蔵文化財調査報告書(47)」
109. 大津市教委(2013)『近江国府跡・菅池遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(71)」
110. 大津市教委(2015)『堂ノ上遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(90)」
111. 大津市教委(2009)『近江国府関連遺跡発掘調査報告書Ⅴ』「大津市埋蔵文化財調査報告書(48)」
112. 大津市教委(2008)『近江国府関連遺跡発掘調査報告書Ⅲ中路遺跡』「大津市埋蔵文化財調査報告書(90)」
113. 大津市教委(2011)『石山国分遺跡発掘調査報告書Ⅱ』「大津市埋蔵文化財調査報告書(69)」
114. 野洲市教委(2004)『1999年埋蔵文化財調査年報』
115. 大津市教委(2003)『坂本遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(34)」
116. 大津市教委(2016)『滋賀里遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(102)」
117. 大津市教委(2017)『穴太野添古墳群発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(106)」
118. 大津市教委(2011・2013・2017)『南滋賀遺跡発掘調査報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(54・66・105・108)」
119. 大津市教委(2004)『錦織遺跡発掘調査概要報告書』「大津市埋蔵文化財調査報告書(36)」
120. 大津市教委(2005)『山ノ神遺跡発掘調査報告書Ⅲ』「大津市埋蔵文化財調査報告書(38)」
121. 栗東市教委・栗東市事業団(2009)『辻遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第16冊」
122. 栗東市教委・栗東市事業団(2011)『糺遺跡発掘調査報告書平成22年度』「栗東市文化財調査報告書第40冊」
123. 滋賀県・県協会(2000)『上鈎遺跡』「葉山川河川改修工事に伴う発掘調査報告書」
124. 栗東市教委・栗東市事業団(2008)『高野遺跡発掘調査報告書』「栗東市文化財調査報告書第15冊」
125. 守山市教委(2001)『欲賀地区ほ場整備関連遺跡発掘調査報告書』
126. 野洲町教委ほか(1991)『野洲町町文化財資料集1990-2』「野洲町内発掘調査概要報告書」
127. 野洲市教委(1987)『1987野洲市埋蔵文化財調査年報』
128. 野洲町教委(1992)『野洲町資料集1992-3』「町内遺跡発掘調査概要」
129. 野洲町教委(1984)『野洲町資料集1984-3』「昭和59町内遺跡発掘調査概要」
130. 野洲市教委(2010)『市三宅遺跡』「平成21年度野洲市文化財調査概要報告書」
131. 滋賀県・県協会(1991)『高木・後川遺跡』「ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書ⅩⅦ-6」
132. 滋賀県・県協会(1994)『加茂遺跡・一ノ坪遺跡発掘調査報告書』「主要地方道大津・能登川・長浜線改良工事に伴う」
133. 蒲生町教委(1989)『ほ場整備関係遺跡発掘調査報告書Ⅰ』「野瀬遺跡・堂ノ前遺跡・蒲生堂廃寺蒲生町文化財資料集(7)」
134. 東近江市教委(2009)『国営日野川農業水利事業に伴う調査杉ノ木遺跡』「東近江市埋蔵文化財調査報告書第11集」
135. 東近江市教委(2011)『八日市壺焼谷遺跡』「東近江市埋蔵文化財調査報告書第17集」
136. 能登川町教委(1991)『正楽寺遺跡』「能登川町埋蔵文化財調査報告書第27集」
137. 能登川町教委(2006)『殿衛遺跡(5・6次)』「能登川町埋蔵文化財調査報告書第62集」
138. 滋賀県・県協会(2003)『市遺跡』「県営かんがい排水事業関連遺跡発掘調査報告書18」
139. 滋賀県・県協会(2004)『金田遺跡』「一般農道整備事業(稲村山地区農道整備)関係遺跡発掘調査報告」
140. 滋賀県・県協会(2000)『人塚古墳』「中山間地域総合整備関係遺跡発掘調査報告書1-1」
141. 滋賀県(1977)「堂ノ上遺跡」『昭和五十年年度滋賀県発掘調査年報』
142. 滋賀県(1977)「史跡近江国衙跡発掘調査報告書」『滋賀県文化財調査報告書第六冊』

143. 滋賀県・県協会(1981)『榎木原遺跡発掘調査報告書Ⅲ』
144. 山崎秀二ほか(1980)「守山市幸津川町下新川神社保存の土器について」『滋賀文化財だよりNo.44』県協会
145. 滋賀県・県協会(2013)『膳所城遺跡』「近江大橋有料道路建設(西詰交差点改良)工事に伴う発掘調査報告書」
146. 滋賀県・県協会(2010)『特別史跡彦根城跡』「滋賀県立彦根東高等学校耐震改修工事に伴う発掘調査報告書」
147. 草津市・県協会(2021)『榊差遺跡・榊差古墳群・黒土遺跡』
148. 滋賀県・県協会(2016)『下羽田遺跡』

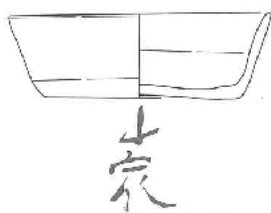
出典註

- ・「滋賀県教育委員会・(公財)滋賀県文化財保護協会」は、「滋賀県・県協会」に省略している。
- ・各「市町教育委員会」は「市町教委」に、栗東市の財団は「栗東市事業団」、「栗東市協会」に省略している。

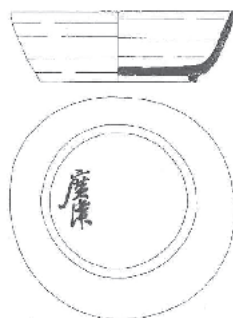
(はま おさむ：調査課 嘱託)



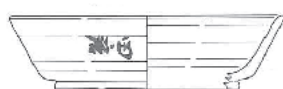
手原遺跡



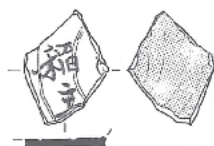
松原内湖遺跡



霊仙寺遺跡



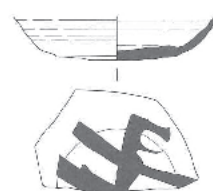
下羽田遺跡



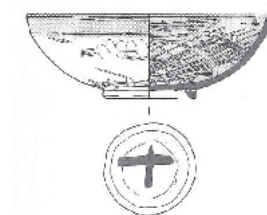
北桜遺跡



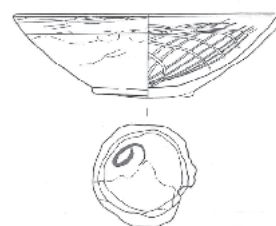
浮御堂遺跡



鴨遺跡

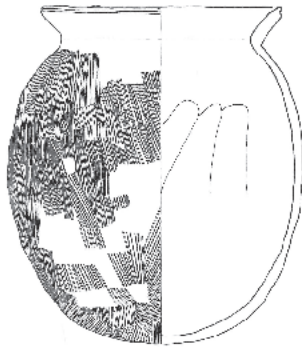


伊勢遺跡



宮前遺跡

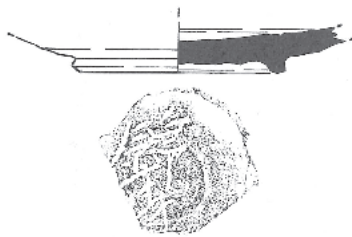
図1 主な墨書土器



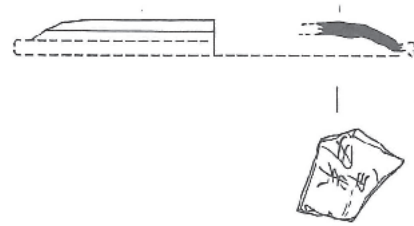
大戌亥・鴨田遺跡「ト」



桜生遺跡「此者酒人首口口」



南滋賀遺跡「錦寺」



青江遺跡「天平寶口」



上仰木遺跡



ブタイ遺跡



塩津港遺跡



穴太廃寺「壬辰年六月」



堂ノ上遺跡「承和十一年六月」



青江遺跡「逆丸」

図3 刻書土器・ヘラ描土器・絵画土器・文字瓦

出土墨書土器一覽表その2

No.	市 町	遺 跡	記 載 文 字	遺物時期	出典
1	大津市	近江国庁	厨・□	8C～9C	1
2		近江国府跡	乞・□	9C～10C	2
3		近江国府跡・管池遺跡	曾麻呂・罡三・寛平大寶・高	8C後～9C	3
4		石山国分寺遺跡	大カ	8C	4
5		浮御堂遺跡	本・智・ちり・分・西・市・西・福カ・得カ・二占・家子・乙戸・中西・坊東・右坊直カ・金全全/衆衆戸/角口角カ	9C～13C	5
6		上仰木遺跡	上・□長	12C～13C	6
7		関津遺跡	四十(罡)□	7C前	7
8			寸・中・丁・上・大・東カ・□	8～9C	
9		東光寺遺跡	□園・淨カ	11C	8
10		中畑田遺跡	林□	9C	9
11	(志賀町)	野路岡田遺跡	上・十・大・米・家カ・来カ	9～12C	10
12	草津市	大將軍遺跡	三・税・栗太・高野・郷長・高長・長福・甲久・高野郷・高野郷長	8C	11
13		皆出遺跡	□	9C	12
14		芦浦遺跡	□・□□	10C	13
15		上笠遺跡	七	10C	14
16		矢倉口古墳群	家	9C	15
17		中畑遺跡	井・○・興寺・□金	8C	16
18		宮前遺跡	の・米・十・□	12C	17
19		志那湖底遺跡	再カ	8C	18
20		榊差遺跡	奥カ・東	9C・12C	147
21	栗東市	手原遺跡	山・貴・大・十・梓・連・越・乙・膏・キカ・美カ・風カ・卅□カ・秋□カ・□□麻呂	8C中	19・20
22		下鉤東遺跡	東		21
23		野尻・下鉤遺跡	犬上・十カ・一カ	8～9C	22
24		野尻遺跡	力カ	9C	23
25		多福寺遺跡	□宅カ	10C後	24
26		峰屋遺跡	□	8C	25
27		林遺跡	□	12C	26
28		小野遺跡	○	13C	27
29		上砥山遺跡	太・井・太□・富豊・小足	8C	28
30		十里遺跡	道	7C後	29
31		靈仙寺遺跡	廣津・十	8C・12C	30・31
32		目川遺跡	朝	9C	32
33	守山市	伊勢遺跡	秋・○・十・大・×・八カ・十十十	8C・12C	33
34		金森西遺跡	左	9C	34
35		金森東遺跡	田邊		35
36		古高遺跡	上・電カ	14C	36
37		服部遺跡	玄カ・辺カ・六カ・北□・玉□・□中・土カ□	8C	37
38		欲賀南遺跡	一・十・大・ノ	12～13C	38
39		山賀遺跡	夜須良カ	9C	39
40		杉江遺跡	六米カ・キ□	9C	40
41		赤野井遺跡	左カ家	8C	41
42		小津浜遺跡	荘□	10C	42
43		下新川神社	海□/□幼民	9C	144
44	野洲市	北桜(北桜西)遺跡	廣・林・人・三・守・入カ・張カ・十カ・神吉・稻主・佛止カ・川原カ・船人カ・三田カ・一升カ・斐カ人・船□・大□・本□・里□・山□・□女カ・□了カ・□乙カ・三上里・□山寺・□曆カ寺・□山寺大・大十カ大・民□/春米運カ/日□/□物者□・蘭カ宅カ/馬カ苑カ入廿秣物	8C中～9C前	43・44
45		三上遺跡	山本	12C	45
46		西田井遺跡	古人カ	12C	46
47		辻遺跡	東人カ/□・□	10C	47
48		安城寺遺跡	十・宮・寺カ・林宅・林□・□福・十□・□	8C	47

No.	市 町	遺 跡	記 載 文 字	遺物時期	出典
49	野洲市	街道遺跡	大	13C	48
50		久野部遺跡	ひやカ	9C	49
51		市三宅東遺跡	□	16Cカ	44
52		大篠原西遺跡	上・□	13C	50
53		大篠原東遺跡	弥カ	14C	51
54		小篠原遺跡	留	13C	52
55		斎ノ神遺跡	六カ	12C	53
56		富波遺跡	寺	9C	54
57		中北遺跡	田	9C	55
58		上永原遺跡	香・十	14C～	44
59		福泉寺	□	14C	114
60	野洲市 (中主町)	西河原森ノ内遺跡	里・笠・前・卅・皆・盛カ・万カ・杉カ・三田・上/湊・ 佛佛カ・□神・神□・□世カ	7C後～8C	43・56
61		西河原遺跡	兆・兆爪カ・爪□・伏安万カ	9C中	43・57
62		西河原薄窪遺跡	尊カ	8C	58
63		西河原宮ノ内遺跡	稲○・上□	8C	59
64		比留田法田遺跡	田	8C	60
65		吉地大寺遺跡	宅カ・地カ・水海カ	9C	43
66		吉地薬師堂遺跡	□・十・①・十十・○十	9C・14C	61
67		光相寺遺跡	上・凡・α・神カ・京カ・廣之カ・□三カ・ 三宅家カ	7C後～8C	43・62
68		光明寺遺跡	奈・彌□□	10C	43
69		五条遺跡	益・寺・院・解・金カ・大宅・大○・金□・寺□・ 比利多	8C後～9C	43・63
70		小比江遺跡	馬カ	9C	64
71		木部遺跡	寺・廿・中□・□郡・虫生宅	7C後・11C後	65
72		八夫遺跡	寺・十	8C	66
73		虫生遺跡	安□	9C	67
74		御明田古墳	□	8C	68
75	甲賀市 (信楽町)	新宮神社遺跡	大・□	8C	69
76		鍛冶屋敷遺跡	二竈領	8C	70
77		北黄瀬遺跡	□	12C	71
78	湖南市 (甲西町)	夏見城遺跡	井○	13C	72
79	近江八幡市 (安土町)	安養寺遺跡・辻野遺跡	田中・□田・田次□	9C	73
80		上出B遺跡	高殿	8C後	74
81		大中の湖南遺跡	□・□□・□毛□	8C	75
82	竜王町	ブタイ遺跡	井・田・卅・○・□・大君・石林	8C	76・77
83	東近江市 (蒲生町)	蛭子田遺跡	依・二・大・柴カ	8～9C	78
84	(八日市市)	金貝遺跡	吉成	9C後	79
85		下羽田遺跡	□・西・屋・宮家・田濱カ	8～9C	148
86	(能登川町)	石田遺跡	十・大・丸三カ・稲カ田	12～13C	80・81
87	(五個荘町)	竜田門ノ前遺跡	御カ・御丙カ	8C	82
88	彦根市	六反田遺跡	一・十・キ・寺・長・秋・梓カ・沐カ・守君・郷長・大家・ 奥家・二杖・真得・三上・毛人・長幸・南カ井・ 逆カ□・□君・大□・□毛人・ 南前/南前井・□□□□□	8C・10C	83
89		松原内湖遺跡	夫・十・田沢・山家・大家	8C	84
90		肥田城遺跡	□	12C	85
91		多景島遺跡	根カ・井三カ	9C	86
92		国領遺跡	井・十・廿・火・案・寺・や・よ・大王・井三カ・ □貞・凡カ	12～13C	87
93		賀田山遺跡	□	12C	88
94		稲里遺跡	申カ・中カ福□	9C後	89
95	多賀町	敏満寺遺跡	本	11C	90
96	米原市 (伊吹町)	上平寺遺跡	□	9C	91
97	(山東町)	能仁寺遺跡	仁・尽・仁/尽/十七	15C	92

No.	市 町	遺 跡	記 載 文 字	遺物時期	出典
98	長浜市	尾上遺跡	上・仲・α・金カ・大口	9C	93
99	(湖北町)	尾上浜遺跡	十・男・ハ・交カ・イカ・博士口	9C	93
100	長浜市 (びわ町)	早崎遺跡	太	8C	
101	(西浅井町)	塩津港遺跡(神社跡)	太・○・C・毛カ・市カ・門カ・卍カ・升カ・くカ・ 上寺・方/方・呪符	12C	94
102		塩津港遺跡(港跡)	キ・升カ・一カ・大カ・魚カ・玄カ・上カ・丙カ・ 君カ・十カ・敦賀・口田・谷口・ 高米カ/座カ/古カ	9C・12C	95
103	高島市 (高島町)	鴨遺跡	津・今・東・真・十・角・丁カ・本カ・大カ・成井・ 土器カ・太口・西口・津口・廣口・口弥・口津・ 津/廣・今西殿・出雲寺・出母寺カ ・口今口東	9C後～10C初	96
104	(安曇川町)	上御殿遺跡	真・真嶋・井上・南一カ・次守文カ・守船人/守君船 人/守君船人/守君船人/守君船人/守君船人/守君 船人	8C後～9C	97

濱(1999)掲載資料は除外している

刻書土器

No.	市 町	遺 跡	記 載 文 字	遺物時期	出典
1	大津市	青江遺跡	天平勝口	9C	98
2		浮御堂遺跡	太・大	10C	5
3		真野廃寺	口口	8C	99
4		穴太廃寺	瓦口	8C	100
5		南滋賀遺跡	錦寺	9C末	101
6	守山市	赤野井遺跡	ルカ	8C	102
7	野洲市	桜生古墳群	此者酒人首口口	7C前	103
8	近江八幡市	大中の湖南遺跡	永カ	10C	75

絵画土器

No.	市町	遺跡	記載文字・絵画	遺物時期	出典
1	大津市	上仰木遺跡	僧兵/女人(絵画)・戯画カ	12C	6
2	守山市	下新川神社	人面墨書・墨書文字	9C	144
3	野洲市	下々塚遺跡	人面墨書	8C	105
	野洲市	市三宅東遺跡	人面墨書		
4	竜王町	ブタイ遺跡	顔(目)カ	8c	77
5	八日市市	地蔵遺跡	符籙カ	12C	106
6	長浜市	大戌亥・鴨田遺跡	竜・人・盾・魚・鳥・虫・蛇・葦・船(絵画)	弥生	107
7		塩津港遺跡	☆・人物(線刻)	12C	94・95
8	高島市	上御殿遺跡	人面	9C	97

文字瓦

No.	市町	遺跡	記載文字・絵画	遺物時期	出典
1	大津市	近江国庁跡	修	9～10C	2・142
2		惣山遺跡	修	9～10C	108
3		菅池遺跡	修	9～10C	109
4		青江遺跡	逆丸	9～10C	111
5		中路遺跡	修	9～10C	112
6		堂ノ上遺跡	修・来カ・十一年六月・承和十一年六月	9C	110・141
7		石山国府遺跡	二・六・十・川・丁・千・×	9C	113
8		檀木原遺跡	口口	7～8C	143
9		長尾瓦窯跡	南	7～8C	143
10		穴太廃寺遺跡	壬辰年六月・庚寅年・庚口・夫口乃口・絵画	7C	100
11		膳所城遺跡	膳・口志賀/大カ津/福村カ・六/之・七・九	17C	145
12	野洲市	福泉寺遺跡	福林寺	14C	114
13	彦根市	彦根城跡	へ・ト・三・長・半・目層平カ・平川善カ	17～18C	146

ヘラ描土器

No.	市 町	遺 跡	記 載 記 号	遺物時期	出典
1	大津市	近江国府跡	9・—	10C	2
2		浮御堂遺跡	三・十・井・井・卅・卅・九字カ	12C	5
3		真野廃寺	×	5C・8C	99
4		坂本遺跡	十	9C	115
5		滋賀里遺跡	井・井口	6C後	116
6		穴太野添古墳群	□・×・—	6C後・7C初	117
7		南滋賀遺跡	×・ノ・三・二・A・井・→・ト	6C後	118
8		錦織遺跡	—・二・×	6C後	119
9		東光寺遺跡	米・・	11C後	8
10		山ノ神遺跡	×・v	7C後	120
11	草津市	野路岡田遺跡	米・×	12C	10
12	栗東市	辻遺跡	—・×	6C・12C	121
13		総遺跡	×	12C	122
14		下鉤東遺跡	×	12C	21
15		上鉤遺跡	×・—	7C	123
16		蜂屋遺跡	×・—	6C・7C	25
17		野尻遺跡	V・米	9C・12C	23
18		林遺跡	二	7C	26
19		高野遺跡	キ	12C	124
20	守山市	伊勢遺跡	十	12C	33
21		杉江遺跡	米/井	9C	40
22		欲賀遺跡	井	15C	125
23		欲賀城遺跡	十	13C	125
24		欲賀南遺跡	十	13C	38
25		小津浜遺跡	×	12C	42
26	野洲市	下々塚遺跡	×	12C	126
27		小篠原遺跡	*	6C後	127
28		常楽寺遺跡	×	11C	128
29		三上遺跡	×		128
30		和田・小篠原遺跡	×	8C	129
31		市三宅東遺跡	⑪・十	弥生・古墳	130
32	(中主町)	西河原森ノ内遺跡	×・×・×	8C	56
33		小比江遺跡	×		64
34		虫生遺跡	十・廿	12C	67
35		光明寺遺跡	×	12C	62
36	近江八幡市	高木・後川遺跡	—・十・*・	12C	131
37		加茂遺跡	—・二・井・×・□	12C	132
38	竜王町	ブタイ遺跡	×・I	8C	77
39	東近江市 (蒲生町)	野瀬遺跡	井・×・□□・♡	6C・12C	133
40		杉ノ木遺跡	×	6C	134
41		蛭子田遺跡	×	6C	78
42	(八日市市)	金貝遺跡	九字カ	9C	79
43		壺焼谷遺跡	×	9C	135
44	(能登川町)	石田遺跡	×	12C	80・81
45		正楽寺遺跡	×・キ	12C	136
46		殿衛遺跡	キ	6C	137
47	愛荘町 (愛知川町)	市遺跡	—・二・×・九字カ	12C	138
48	彦根市	六反田遺跡	カ・×	9C	83
49		国領遺跡	井・二・×・丹・□	13C	87
50		金田遺跡	×	9C	139
51	米原市 (伊吹町)	人塚遺跡	×・—	7C	140
52	長浜市	大戌亥・鴨田遺跡	ト	3C	107
53	(西浅井町)	塩津港遺跡	☆	12C	94

ANNUAL BULLETIN
of
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritage
Vol.34 2021.3

私たちは文化財をとおして
ゆたかな滋賀づくりに貢献します。



公益財団法人滋賀県文化財保護協会
Shiga Prefectural Association for Cultural Heritages